

報 告

義肢装具 SIG 第 7 回講習会に参加して

日本大学 芸術学部 デザイン学科
インダストリアルデザインコース 4 年 野村 友樹子

8月26日からの3日間、義肢装具 SIG 講習会に参加しました。私はプロダクトデザインを専攻しており、短下肢装具をテーマに卒業制作を進める過程で、情報と専門知識を得る為に参加しました。

初日からとても緊張していたのですが、にぎやかな前夜祭にて参加者の皆様と交流出来たことで、その後の2日間の講習をより楽しく有意義に過ごす事が出来ました。参加者の中には私のように「義肢装具に関する専門課程に属さない学生」や「エンドユーザー」もちろん居り、その方々と交流出来た事も貴重な体験でした。会全体の雰囲気は活気があり、皆さん気軽に話しかけて下さって、フランクな印象を受けました。

講習は、義肢装具士だけでなく医師、理学療法士、製作技術者等、義肢装具を取り巻く専門職の方々の日々の取り組みを一度に知る事が出来る内容でした。

27日のコルセットの組み立て実演や、義足ソケット成型の実演などは、作業の早さと工夫に驚き、体験実習では初めて金属の溶接を体験し、義肢装具の製作過程に必要な技術を、他の参加者との交流を交えながら楽しく学べました。

28日の理学療法の先生方による講習と実演では、下肢装具を用いたリハビリにおいてどのような事が行われているか、その際に意識されている事を学びました。特に印象的だったのは「リズミカルな歩行」という言葉で、下肢装具を用いる際に、歩行に関するひとつひとつの動作の関連を知る事が重要だと感じ、更に知りたいと思いました。また、講演後に質問させて頂いた際には丁寧にご回答頂き、装具を用いる立場から、今後装具に求められることについて意見を伺うことが出来ました。

私の場合、講習の内容もさることながら、参加者の方々から沢山の情報を頂く事が出来、とても勉強になりました。私がピンポイントで知りたいと思ってること、実際の現場で行われ、起きていること、本やインターネットで調べているだけでは手に入らない「生の情報」を伺えたことは最大の収穫でした。

全体が和やかな雰囲気で楽しかったことももちろんですが、川村義肢の工場見学に始まり、前夜祭、各種講習、体験実習等、内容の濃いもので、非常に多くの学びがあり、次回も是非、参加したいと思っています。



図 1 講習の様子



図 2 体験実習の様子